

日程 2022年3月28日～3月30日

目的 北海道・茨城県の生産人口向上を構想する「ボールパークを起点とした関係醸成型の教育旅行」のプログラム実証実験として、茨城県と北海道の高校生・大学生が、様々な協働体験による心・知・体の交流を実施し、下記2点を見出すこと。

- ① お互いがお互いの価値やまちの価値等を相対的に見つめ直す
- ② 学生目線で新しいプログラムを企画提案する

開催地 北広島市・江別市・札幌市

参加者 【茨城県】13名

- 大学生11名(茨城大, 筑波大&院, 武蔵野学院大, 早稲田大)
- 社会人2名(牛久市職員)

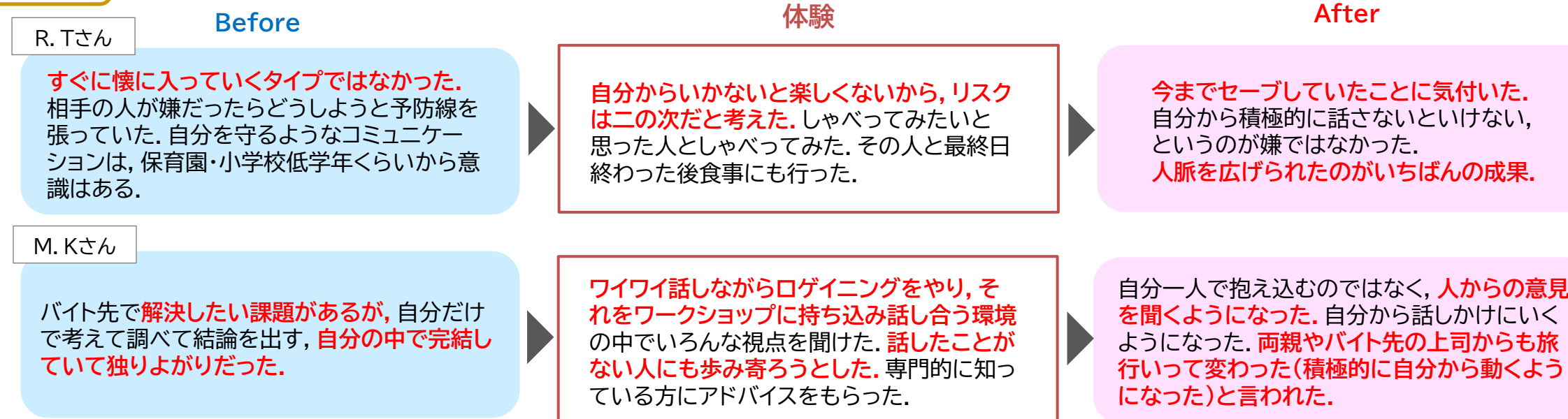
【北海道】24名

- 高校生15名(北広島高, 札幌藻岩高)
- 大学生8名(北海道教育大, 北海道大大学院, 藤女子大学)
- 社会人1名(公立学校教諭)

実施スケジュール

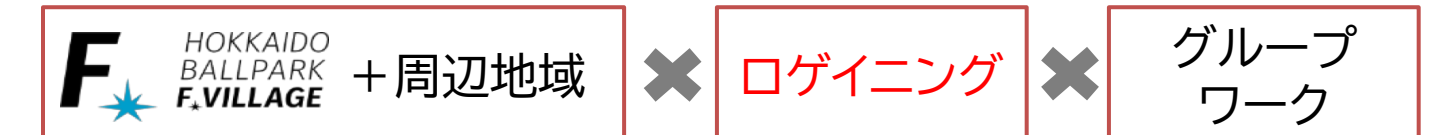
	1日目:3/28@江別	2日目:3/29@北広島	3日目:3/30@札幌
午前	アクティビティ (アイスブレイク) 酪農体験 @酪農学園大学	ビジターセンター 訪問 ログイニング	街散策@札幌 (道庁付庁, 商業施設, 市役所)
午後	街散策@江別 (高層) 夕食づくり ミートアップ @ゲストハウス	ワークショップ @北広島市役所 ミートアップ @札幌ビール園	ワークショップ @北海道教育大 サテライト まとめMTG @北海道教育大 サテライト
夜	ワークショップ @ゲストハウス		

成果 ~参加者の自分に対する気づき~



~「ログイニング」を活用した教育プログラムの有用性~

<ログイニングとは>
2~3人のチームを組み、町の地図に示されたポイントを制限時間の範囲内で回り、総得点を競うオリエンテーリングの競技。地域の名所やお店がポイントでそこで写真を撮ることで通過証明となる。



学校のグループワークでは、個々が各々で調べてきたものを出し合うだけのディスカッション=頭だけの協働作業が多い現状。

「ログイニング」を活用することで身体を使った共通の体験がベースとなるため、グループワークでの創造性・創発性が促進される。

北海道 第二弾:文武両道場 編

日程 2022年7月29日～8月1日

目的 北海道・茨城県の生産人口向上を構想する「ボールパークを起点とした関係醸成型の教育旅行」のプログラム実証実験として、茨城県と北海道の高校生・大学生が、様々な協働体験による心・知・体の交流を実施し、下記2点を見出すこと。
 ① お互いがお互いの価値やまちの価値等を相対的に見つめ直す
 ② 学生目線で新しいプログラムを企画提案する

開催地 北広島市・江別市

参加者 【茨城県】4名／【岩手県】1名
 > 高校生4名(水海道第二高)
 > 大学生1名(盛岡大)
 【北海道】48名
 > 高校生48名(北広島高,とわの森三愛高,札幌藻岩高,立命館慶祥高)

実施スケジュール



成果 ~パレーボールを通じた自分に対する気づき~

参加前 (水海道二高1年生)

これまで「自分らしさとは何か?」と考えていたが、あまり見出せていなかった。

嫌なことがあると、ずっと1人で悩んで落ち込んでいることが多かった。

体験

当日のモチベーションや自分の感情・行動・思考について、いろいろな観点からワークシートに書き出した。そうしたことで、自分を客観的に見ることができた。

参加後

自分は好きなことになると、集中して探求していく性格だと発見した。

深く考え過ぎず、ポジティブな考え方になるように切り替えるようになった。

~北海道を通じた自分に対する気づき~

小さい子供と接するのは苦手だったが、ドッジボールで夢中になって本気で一緒に遊んでいるうちに楽しかった。真面目に考えて動くのも大事だが、笑って過ごす時間も大事。

マルシェで子どもたちを楽しませる企画をしているとき、楽しそうないきいきとした表情が全員からあふれた。あの表情はパレーでは見ることはできない。

様々な人の人生観を聞いて、いろいろな生き方があると知り、視野が広がった。大学に行った方がいいと言われていたが、そうでなくてもいいんだと思った。

~北海道を通じた自分の「まち」に対する気づき~

ワークショップで、北海道の子たちからは、ハードや場所の話は出てくるけど、ソフト(人)に特化するものは出てこなかった。自分のまち(岩手県紫波町)で体験した「人」の魅力を伝えて、それを企画案に盛り込みたかったが、あまりにも言語化できず伝わらなかった。建物など目に見えるものしか伝えることは無理なのかと思ってしまった。

身近にボールパークは見えていたが、知らないことが多いと感じた。もともとは田舎だと思っていたが、商業施設などいろんな店ができるなら、北広島にもう少しいてもいいかなと思った。

北海道も茨城県も同じようにたくさんのいい自然がある。北海道は観光目線で人が来てもらえるように良さを引き出している。茨城県は控えめでアピールしていない。



北海道 第三弾:札幌ドームチャレンジツアー 編

日程 2022年9月23日～9月25日

目的 老若男女、初心者/玄人等立場の違う人々が、茨城県と北海道から札幌ドームに集結してダンスパフォーマンスを披露する「非日常体験」を通して、下記3点を促進すること。

- ① 参加者のまだ見ぬ成長への探求
- ② 北海道と茨城県の新しい文化醸成
- ③ 身体パフォーマンスの振興

また、ファイターズと茨城県南西7市連携協議会のパートナーシップ協定に華を添え、新しい未来への弾みの第一歩とすること。

開催地 札幌市

参加者 【茨城県】26名

- 高校生5名(取手第二高, 牛久高, 酒田南高, 東京都立中央ろう学校 他)
- 大学生・専門学生7名
- 社会人14名(市職員, 自営業, 会社員, ダンス講師 他)

【北海道】36名

- 高校生・大学生・社会人36名

実施スケジュール



成果 ~参加者の自分に対する気づき~

茨城・20代男性

総じて自分はどんな人？

自分とは、①人前ではあまり本当の自分自身を曝け出すことはなく、悩みがあってもあまり人には打ち明かさない人間であることがわかった。また、②口では色々というが、挑戦したことがないことをやるとビビるといふ人間であることがわかった。

我慢していたこと、封印していた能力は？

・踊ることが恥ずかしく思っている中で、恥ずかしさを人前で出さないようにしていた。

開放していたこと、発揮していた能力は？

・一度やると決めたら、どんな形になろうがやり切る。
・人前よりも、人のいないところで練習をやっていた。

新たにとった行動、新発見した能力は？

・スポーツを通じた仲間づくり、新たな人間関係を構築するために、積極的に参加者とコミュニケーションをとった。
・思っていたよりも、ビビりで小心者であることがわかった。

~北海道×茨城県 新たなビジネスモデルの第一歩~

